

7月17日(火)

一人の価値

聖書朗読 ルカ 13:18~21

御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。
マタイ 6:10

ネブカデネザル王が見た夢のなかで、彼の権勢は、多くの鳥がその枝に巣を造る巨大な樹木にたとえられていました。そのような樹木だからこそ、多くの異なる種類の鳥を収容できたのでしょう。

神の国は、私たちの生活の中で始まっています。誰でも、例えば、先生は私たちの思考にある種を植えつけます。その種は成長し、成長するにつれて応用力を発揮し、大きな影響力を持つに至ります。そして、私たちを樹木にたとえるならば、私という樹木の枝には知らないうちに鳥が住み着いているようになるでしょう。どのような鳥があなたの樹木に宿っているかは、あなたが人生をどのように建て上げられてきたかによるのです。

イエス様は神の国について述べる際に、別な隠喩を用いました。神の国はイースト菌のようなもの——静かに、どんどん発酵させていくイースト菌、有機体を成長させる触媒のようなものです。パン種を膨らませるものです。葡萄ジュースも発酵させます。

このように、神の国は樹木のようなものであり、イースト菌のようなものなのです。共に、変化について述べており、人々がイエス様の求められる拡大的な変化に自らを明け渡す時に潜り抜けるあまり人気のない活動について言っています。からし種は、小さく目立たない方を好むと思いますし、イースト菌の単体は単独の菌でいたいと思います。神のご計画は自我の死と成長を含んでいます。

讃美歌 78

祈り 主よ。あなたは種子が巨木になるように、私たちの生活に変化を許されるのでしょうか？ 日々生きていく中で変化していく生活の中に共に住まわれるのでしょうか？

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

ポール・トーマス

カルフォルニア州 ユカイパ

7月18日(水)

貧しき寡婦への称賛

聖書朗読 ルカ 21:1~4

与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。

ルカ 6:38

私の家族と私が台湾へ宣教に赴いておりました時、家の裏手に住んでいた素敵な寡婦から定期的な支援を受けておりました。彼女の支援額は小額でしたが、私たちにとりましては、それは大きなものでした。私たちは、彼女が小さな掘っ立て小屋に住んで、薪ストーブで食事を調理し、20年もの間同じコートを着ていることを知っていました。彼女は生活保護で何とか生計を維持しており、召使をして働いていました。そして彼女の稼ぎは全て私たちと教会に捧げておられました。

彼女の存在は、神殿の賽銭箱に二枚の小さな銅貨を投じた貧しい寡婦を思わせるものでした。豊かな人々が箱に投じる巨額の献金は、イエス様に価値あるものとは映りませんでした。しかし、貧しき寡婦がイエス様の目に留まりました。イエス様は言われました。『この貧しいやもめは、どの人よりもたくさん投げ入れました。みなは、あり余る中から献金を投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、持っていた生活費の全部を投げ入れたからです。』(ルカ 21:3~4)。イエス様は彼女の信仰に注目したのです。

神様を信頼していたからこそ、持っているものをすべて捧げることにより、信仰の飛躍を成し遂げたのです。彼女は神様が備えてくれることを信じており、それは正しいことでした。神様は信頼を置く人に報いてくださいます。与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。

聖歌 157

祈り 父よ。あなたはあなたの御子を私たちに与えてくださいました、イエス様はその生命を私たちに与えてくださいました。今、感謝をもって、私たちの命と持っているものをあなたにお捧げします。

イエス様の御名によって。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州 グレスハム

7月19日(木)

彼女は私を喜ばせた

聖書朗読 ルカ 23:32, 39~43

「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。
ヘブル 3:13

ある日、私は病院におりました。医師との面会時間が来て、看護師が診察室に戻るよう言ってきました。彼女は私に元気になっているかと尋ねてきましたので、私は言いました。「まだここにいると思うね。結構なことだね」。彼女は答えて言いました。「そうね、どこかもっといいところがあれば、そうよね」。私は言いました。「でも、ここっていうのは病院って意味じゃないよ」。そして、彼女も返答して、「そうよ」と言いました。私は彼女の言ったことをよく考えてから、彼女に返事しました。「この人生の後に、よりよい場所があるとしたいのかい。私の教会では、そういつている」。すると彼女が言いました。「私の教会でもよ。そして私はそれを信じているわ！」

私が言いたいのは、彼女はその信仰の宣言で「私を喜ばせた」ということです。『あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』とイエス様が告げた「十字架上の犯罪人」に似た応答だと思います(ルカ 23:43)。

イエス様の隣で十字架に架かっていた犯罪人が、もしイエス様が神の子であるならば自らをその運命から救うように訴えました。その反対側で十字架に架かっていた犯罪人が彼を非難して言いました。「我々は死に値する。しかしイエス様は無実であり不当に十字架に架かっているのだ」。そして彼はイエス様にお願いをしました。「神の国に行った時に私を思い出してください」と。この信仰の表明に対し、イエス様は彼を励まし、彼の祈りがその日に応えられたことを告げたのでした。実に、イエス様は「犯罪人を喜ばせた」のです。

讚美歌 55

祈り 父よ。私たちの信仰について、私たちの心が他者に開かれているようお助けください。今日私たちが「人々の心を喜ばせる」ことができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジェニングス・デービス

カルフォルニア州 オークパーク

7月20日(金)

叫 べ

聖書朗読 ルカ 24:1~12

そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。
マタイ 28:8

毎秋、私が担当している新人聖書クラスでは、彼らの信仰の物語を書いてもらっています。教師としては、その物語が彼らそれぞれの背景を理解し、よりよく彼らを知る助けになります。

ある生徒は、「幼い頃、私はイエス様を心から愛していました。5歳の時、イエス様についての劇に母が私を参加させました。その劇中でイエス様は復活され、私は劇場の座席の間の通路に走り下りて叫びました。イエス様！ イエス様！ イエス様は生きておられる！」と書いていました。

日曜の早朝、天使が婦人たちに良き知らせを告げました。イエス様の収められた墓が空になっていたのです。イエス様は生きておられる。喜びにあふれて、彼女たちは弟子たちと分かち合うために走って行きました。

キリストの復活は私たちを喜びで満たすのでしょうか？ 永遠の生命の希望を与えてくれる良き知らせを他の人々に伝えることに感動するのでしょうか？ 今日、福音を聴くことを必要としている隣人、同僚、友人はおられませんか？

山の上から私は叫ぼう。

私は世界に知らせたいのだ。愛の主が私のところに来る。

私はそれを伝えたい。

—— クルト・カイザー

聖歌 172

祈り 主よ。日々の暮らしの中で、喜びをもたらし、永遠の希望を与えてくださるメッセージを分かち合うよう、私たちの心が開かれていますように。
イエス様の御名によって。アーメン。

サリー・J・シャンク

ウェスト・バーヂニア州 ビエンナ

7月21日(土)

神のみことば

聖書朗読 ヨハネ 1:1~5

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
ヨハネ 1:1

あなたは今、私の書いた文を読んでおられるでしょう。これらの文は、私の心に生じた思いを表現しているものです。もし、伝えることをしないのであれば、私の思いは私の意識の中に隠れたままになり、他の人に知られることはありません。しかし、言葉は形を与えられ、認識可能なものとなるのです。言葉は、私たちの心の思いを実現させ、それを通して他者に、希望に満ちた積極的な方法で影響を与えることが出来るようになるのです。

イエス・キリストは、全能の神のみことばの頭です。ヨハネ福音書の冒頭の節は、イエス様を神のみことば(ロゴス)として描いております。この驚くべき表明は、イエス・キリストが、神の御言葉として、神御自身と同じく永遠であられることについて述べています(ヨハネ 1:1)。そして、人の言葉がその本質や彼らの心の働きを反映すると同様に、イエス様が神御自身の真実性を明らかにされるのです。神は御自身をイエス・キリストはにおいて知らしめるのです。

聖書の冒頭である創世記1章においてさえ、神が言葉によって宇宙を在らしめたのです。イエス・キリストは万物を生成し、維持する神のみことばなのです(ヨハネ 1:3)。そして、神のみことばこそが、すべての人に、物質的にも霊的にも命と光をもたらすものなのです(ヨハネ 1:4)。神の尊いみことばを心に留めましょう。

讃美歌 187

祈り 主よ。御子イエス・キリストの中に、あなたの永遠のみことばを授けてくださり感謝します。私たちが、あなたのみことばを心に留め、心にキリストを宿らせることができますように。
イエス様の御名によって。アーメン。

ロバート・P・リー
コロラド州 デンバー

7月22日(日)

神の子羊

聖書朗読 ヨハネ 1:29~34

彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。 ヨハネ 1:8~9

洗礼者ヨハネは、イエス様の道を備えるために遣わされました。ある人は、ヨハネをキリストかあるいは預言者ではないかと思いました。しかし、彼はきっぱりと自分はキリストではないと告げました。彼は、自分はキリストのサンダルを解く値打ちもないと言いました。

キリストが現れた時に、ヨハネは叫びました。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ 1:29)。ヨハネは更に説明して言いました。『私が「私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ」と言ったのは、この方のことです。』(ヨハネ 1:30)。ヨハネは、イエス様が創造の始めよりそれは彼が地上に生まれるはるか前——神様と共にある事実にまで言及しました。

ヨハネはイエス様を理解しました。神が予めヨハネに伝えていたように、天から聖霊が鳩のように下り、彼の上に留まったからです。イエス様のことがすべての人に明らかになった時、弟子たちは彼に従い始めました。彼らはイエス様がおっしゃること全てを聞こうとしました。彼らは興奮し、友人たちにイエス様のことを伝えました。従う者たちは急速に増えていきました。

イエス様は今日も教え続けておられます。聖書の中のイエス様のみことばは、イエス様が私たちに望まれておられるもので、信心深い生活を如何に送るかを教えてくれるものです。

ヨハネやほかのイエス様に従う者たちと同じく、みことばを聞き発奮しましょう！

讃美歌 345

祈り 主よ。神の子羊であるあなたの御子の、祝福されたるみことばを通して私たちを強めてください。
イエス様の御名によって。アーメン。

スー・ラタム
カルフォルニア州 アンテロープ